

語感や語彙を豊かにすること(対義語)

つまずきの実態

～こんな生徒の姿が見られませんか？～

語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にかそうとする意識が低い。

「言葉の意識調査（2年生173名対象）」より

辞書を使って調べることは難しいし、面倒くさいなあ。
(41%)

辞書よりパソコンの方が簡単で、すぐ調べられるよ。
(58%)

辞書を使っても、対義語や類義語、用例まで読んだりしないよ。
(34%)

実践の概要

単元名

対義語辞典を作ろう！

『類義語・対義語・多義語・同音語』教育出版

目標 資料（主に国語辞典）を使って、対義語辞典を作成することを通して、言葉に対する興味をもち、語彙を増やしていく。

内容

- 各自担当の語句について、資料を使い「対義語」と「類義語」及び「意味」を調べる。
- 「用例」について各自が短文を作成する。 ・グループで推敲・校正を行う。
- 語句からイメージすることをイラストに描く。
- 「オリジナル対義語辞典」を作成し、読み合わせをする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

	学習内容（単元名）	つまずきの実態
第3学年	言葉の小窓2	ことわざや慣用句など生活言語に興味・関心をもち、語彙を増やす意欲に乏しい。
第2学年	対義語辞典を作ろう！	語句や文、語彙などに興味をもち、主体的に調べ自らの表現活動にかそうとする意識が低い。
第1学年	芸術作品の鑑賞文を書こう！	語彙が乏しいため、自分の考えを相手にわかりやすく表現することができない。

単元末の目指す姿

- 目的に応じた資料（対義語辞典・類義語辞典など）を選択することができるようになる。
- 例文を考え、互いに推敲することで、新しく得た知識（言葉）を適切な使い方で表現しようとする意識ができるようになる。
- 辞書に対する興味が深まり、意味以外の対義語や類義語、用例までを意識し、自ら調べるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

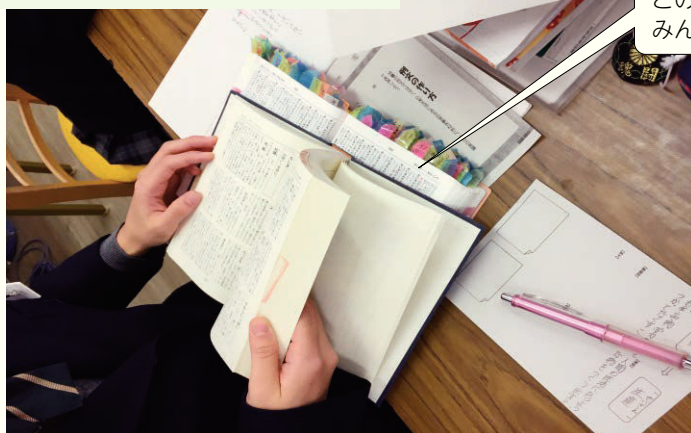
複数の資料を使い、より理解しやすい表現を考えさせる。

活動のねらい▶ 資料の内容を吟味し表現することによって、目的に合わせて必要な言葉を選択し、表現を考えることができる。

ここがポイント

1つの資料からそのまま書き写すのではなく、複数の資料を比べることによって、よりわかりやすい表現を考えさせる。そのために、学校図書館と公共図書館の団体貸出等を利用して、複数の資料を用意しておく。

複数の資料から表現を考える



どの辞書の意味がわかりやすいかな...?
みんなはどう思う?

(期待される生徒の姿)

資料（辞書など）によって、表現の仕方が違うことに気付くようになる。複数の資料を比較することによって、辞書に書かれている意味の理解が深まり、他者にとってもわかりやすい表現を考えることができるようになる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★主体的な学びにつながる実践

- 自作の「用例」を4人班で推敲し、校正する活動を取り入れる。
- 各自の「語句のイメージ」を視覚化するためにイラストに表現する。

活動のねらい▶ 生徒同士で推敲し合う中で、より文脈に即した表現を意識することができ、自作の「用例」についても客観的に見直すことができる。
• イラストで表現し、それを説明する中で、自分が何を伝えたいのかが明確になり、伝えたいことに適した表現になっているかを考えながら話し合うことができる。

ここがポイント

- 用例の書き方は、事前に、他の語句を使った用例の見本プリントを用意する。
- 作成上のポイント＝①身近なテーマを題材にして書くこと、②主語と述語のある一文形式にすること、推敲のポイント＝①文中における語句の使い方が適切であるか、②主語・述語があり、文の形になっているか、③誤字・脱字はないか、④個人名を使っていないか、に沿って検討するよう指示する。

(期待される生徒の姿)

- 「用例」を推敲するために、4人で意見交換することによって、より文脈に即した使い方が考えられるようになる。
- イラストに表すことで、日常生活での言葉の使い方に対する意識が高まり、主体的な学びにつながる。

授業の様子



「AとBが相違する。」
は、おかしいよ。

「AとBが相違する点はCである。」
という形にした方がいいと思うよ。